

心肺蘇生法を学習して

射水市立新湊南部中学校 2 学年 H30. 6. 21 実施



射水市医師会の医師や看護師、新湊消防署の救急救命士や女性消防団員の方々を講師に迎え、心肺蘇生法実技講習会を行いました。命の大切さや救急車が来るまでの応急手当の手順を、実習人形や AED トレーナーを使って学びました。実施後の感想を紹介します。

最初、消防署員の方が実演した時は、とても迫力があり緊張しました。やれるかどうか不安だったけど、助かる命が増えるかも知れないと思ったので、挑戦する気持ちになりました。

やってみるととても疲れ、体力を使うということが分かりました。最初は不安だったことが、人のためにできることがあるという考えに変わりました。貴重な体験ができてよかったです。(A組)



人が倒れていたなら自分は何をしなければならぬのか、その手順がよく分かりました。自分でできることをしっかりとやって、少しでも助けられるようにがんばりたいです。

将来の夢が看護師なので、こういう機会があって本当にうれしかったです。(A組)

僕は命の大切さを学ぶことができました。チームで協力して、AEDや心肺蘇生をすることの大切さに気付きました。消防署の方は毎日大変な仕事をしていて、素晴らしいと思いました。今日学んだことを生かして、一人でも多くの命を救いたいと思います。(E組)



ずっと胸骨圧迫をしなければならぬ、その体験をしました。予想以上に腕や手首が疲れ、今回は屋内だったけど、夏の屋外だと汗をかいてもっと大変だと聞き、命を救うということの大変さと責任感を感じました。

身近な射水市で年間 82 件も心肺停止状態で救急連絡があったと聞き驚きました。緊迫した状況の中で、心配蘇生を行う人たちが素晴らしいと思いました。(A組)

最初、少し笑っていたりしたけど、教えてくださいました方が真剣な表情で話しておられ、だんだん真剣に話を聞いて活動ができました。友達に手順を教えてもらいながら体験ができました。命にかかわることなので、自分から行動していきたいと思いました。(A組)

射水市では、1 年間に心肺蘇生法が必要だった人は 82 人で、元気で過ごしている人は 2 人しかいないことに驚きました。また、AED の役割にも驚きました。AED は心臓を動かすためのものではなく、プルプル震えている心臓を止めるためのものだと思います。勉強になりました。(A組)



119番通報をしてから救急車が到着するまで、6分半もかかってしまうので、心臓マッサージや人工呼吸をしなければいけないことが分かりました。突然このようなことがおきたら、すぐに動くことができるようにするために、今日の講習はとても役立つ講習だと思いました。(B組)

自分が思っていたよりも心肺蘇生は大変でした。今日は1回しかしなかったけど、実際は救急車が来るまでしなければならないと聞き、とても驚きました。射水市でも心肺蘇生法のおかげで生きている人がいると聞き、とてもよい経験ができたと思いました。みんなが真剣に取り組んでいたのがよかったと思いました。(B組)



心肺蘇生法は体力がいることで、中でも胸骨圧迫は力も体力もいるので、特に疲れました。私は人が倒れているのを見たこともないし、心肺蘇生法もやったことがなかったので、とても貴重な体験になりました。初めてグループで実習するのは不安でしたが、集中して話を聞くことが出来ました。こんな体験ができてとてもうれしかったです。

今日は命に関わる体験をしました。これから人が倒れていたら、どうすればよいかを自分で考えて行動したいです。(B組)

テレビで見たことがあり、簡単だと思っていたけど、予想以上に体力を使い、大変だと分かりました。単三の電池の長さぐらいの深さで「ぶんぶんぶん はちが飛ぶ」のリズムに合わせてすると教わり、分かりやすかったです。AEDの使い方は案外簡単でした。心臓をはさんだ所にパッドをはることが分かりました。

命を助けられる1人として積極的に行動していきたいです。(B組)



とても貴重な体験が出来たと思います。いざという時に今日教えていただいたことを生かせば、救える命があるかも知れないと分かったし、命の重みも改めて感じることができました。いつかそういう時になったら、今日の学びを生かして、落ち着いて行動したいと思います。

また、人の命を救う仕事をする方々を尊敬し、素敵な仕事だなと思いました。すごくよい経験になったと思います。(B組)